

# 2027年3月期 第2四半期 決算説明資料

**国内運用会社3社そろって営業利益2倍超**

**－ 連結効果ではなく、各社の成長 －**



**2026年10月27日**  
**代表取締役社長 朝倉 智也**

# 過去最高の上期 ― 統合で、成長の傾きを変える

| 収益力の加速                                | 運用資産の拡大                  | 株主還元を継続                         |
|---------------------------------------|--------------------------|---------------------------------|
| 2027年3月期 上期EPS<br><b>25.9円</b>        | 連結運用資産残高<br><b>約14兆円</b> | 中間配当<br><b>9円50銭</b>            |
| 前期通期EPSの約92%                          | 前年同期末比 +45%              | 8期連続の増配                         |
| 3社同一ベースで営業利益2.3倍<br>営業利益率 19.5%→24.3% | 資金純流入は69ヵ月連続             | 期末まで17期連続増配、18期<br>連続増配の継続を基本方針 |

**半年で前期通期EPSの9割超**  
**2027年4月、運用×保険の統合で次の成長ステージへ**

## **PART 1**

### **過去最高の上期**

**－ 3社そろって営業利益2倍超、2Qは1Qをさらに上回る －**

# 売上高・全利益で過去最高 営業利益4.6倍、営業利益率は19.5%から24.3%へ

## 経常利益と当期利益は17期連続の増益

(単位:百万円)

|       | 2026年3月期 第2四半期<br>(2025年4月～9月) | 2027年3月期 第2四半期<br>(2026年4月～9月) | 対前年同期<br>増減 |
|-------|--------------------------------|--------------------------------|-------------|
| 売上高   | 7,273                          | 15期連続 過去最高 27,000              | 3.7倍        |
| 営業利益  | 1,416                          | 7期連続 過去最高 6,548                | 4.6倍        |
| 経常利益  | 1,757                          | 17期連続 過去最高 6,656               | 3.8倍        |
| 当期利益※ | 1,052                          | 17期連続 過去最高 3,582               | 3.4倍        |

※ 親会社株主に帰属する中間期純利益

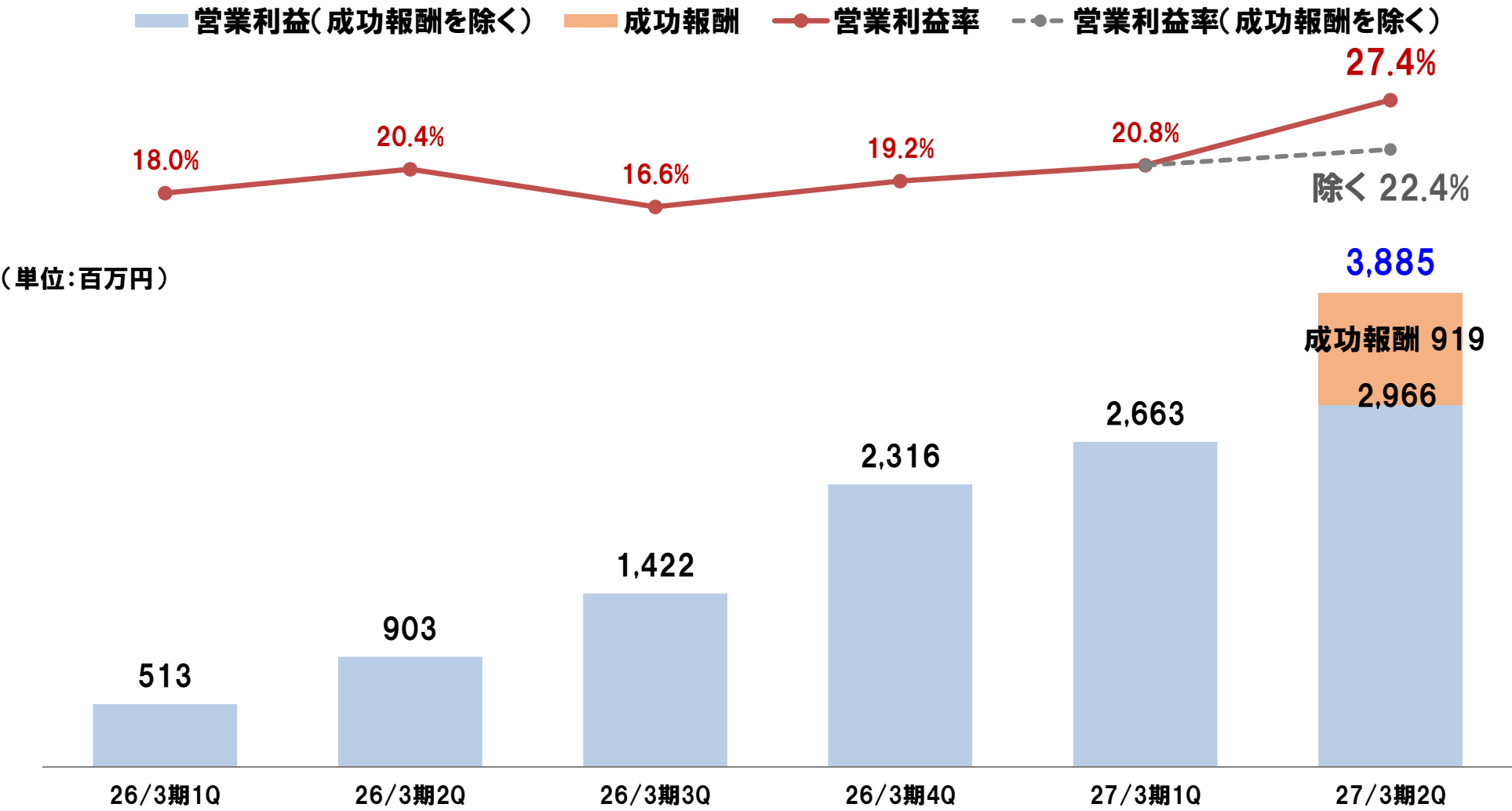
# 2Q営業利益は前四半期比46%増 ― 成長が加速

(単位:百万円)

|      | 2027年3月期1Q<br>(2026年4月～2026年6月) | 2027年3月期2Q<br>(2026年7月～2026年9月) | 対前四半期<br>増減<br>(%) |
|------|---------------------------------|---------------------------------|--------------------|
| 売上高  | 12,823                          | 14,178                          | 10.6               |
| 営業利益 | 2,663                           | 3,885                           | 45.9               |
| 経常利益 | 2,701                           | 3,956                           | 46.5               |
| 当期利益 | 1,389                           | 2,194                           | 57.9               |

# 成功報酬を除いても増益・利益率改善 — 基礎収益力が向上

営業利益率は1Q 20.8% → 2Q 22.4%(成功報酬込み27.4%)



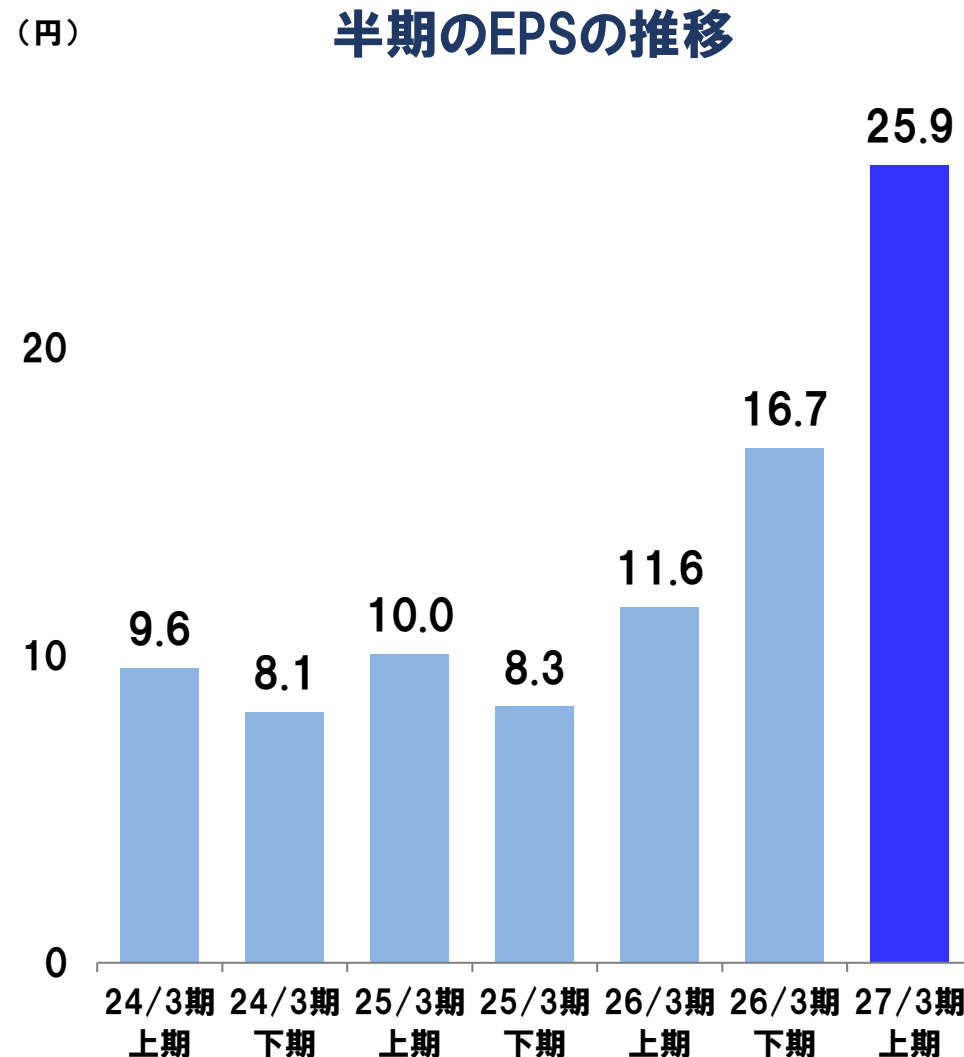
※SBI地域銀行価値創造ファンドの成功報酬(2Q 対応原価控除後919百万円)

# 上期EPS 25.9円 ― 半年で前期通期の9割超

## 当期純利益は上期だけで前期通期超え

### 株式数+27%を上回る成長

|                    | 26年3月期<br>通期 | 27年3月期<br>上期 |
|--------------------|--------------|--------------|
| 当期純利益<br>(百万円)     | 3,073        | 3,582        |
| 株式数※               | 108.6百万株     | 138.1百万株     |
| 1株当たり利益<br>(EPS)   | 28.3円        | 25.9円        |
| 前年通期の<br>EPSに対する比率 | —            | 約92%         |



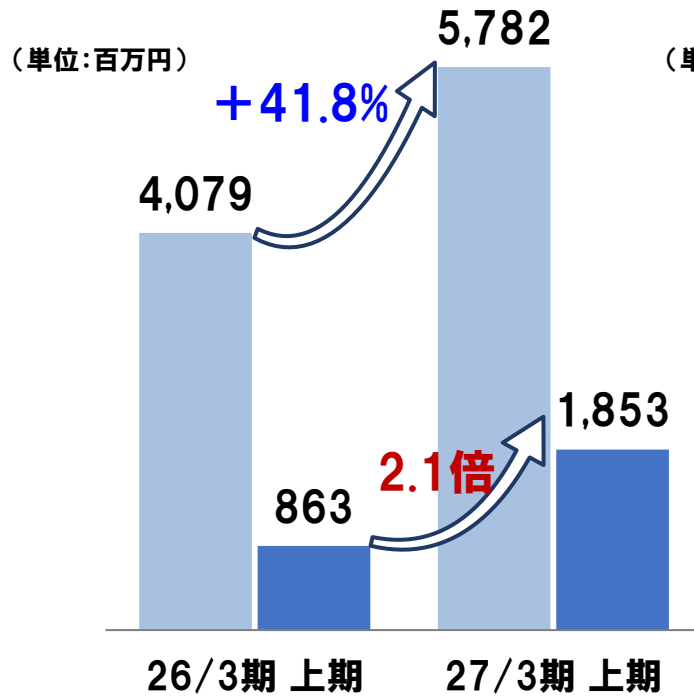
※ 26/3期は決算短信の期中平均株式数108,610,035株(報告EPS 28.3円)。  
 上期EPS=各期の中間決算短信のEPS、下期EPS=通期EPS-上期EPS。

# 3社すべて営業利益2倍超 同一ベースで2.3倍、統合の足し算ではない

## 営業利益率は3社すべてで改善 — 連結19.5%→24.3%

<SBIアセットマネジメント>

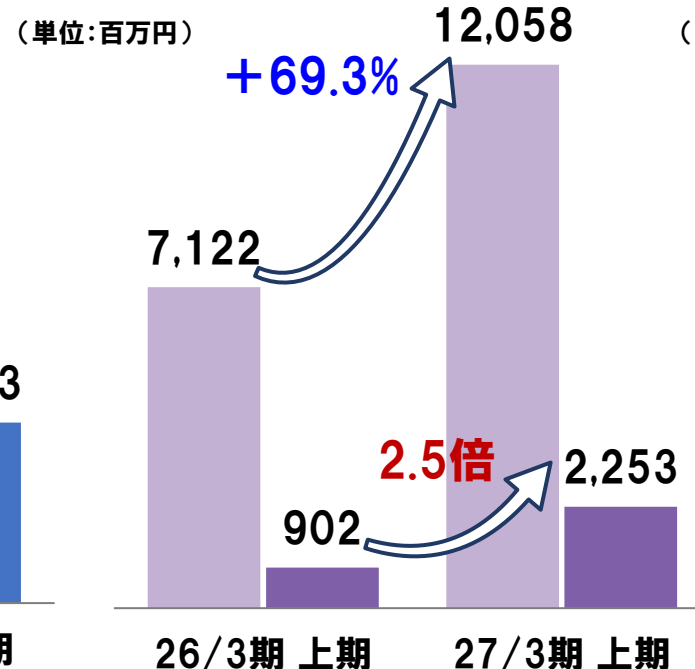
■売上高 ■営業利益



営業利益率 21.2% → 32.0%

<SBI岡三アセットマネジメント>

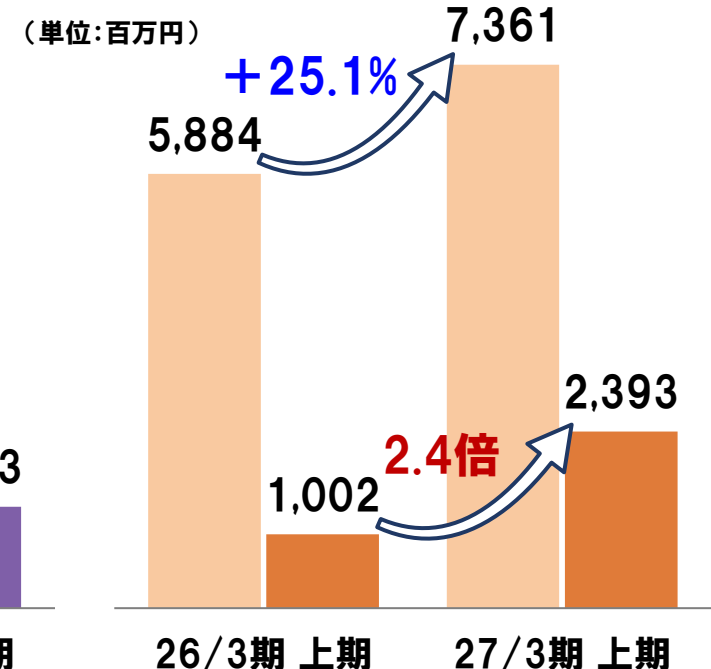
■売上高 ■営業利益



営業利益率 12.7% → 18.7%

<レオス・キャピタルワークス>

■売上高 ■営業利益

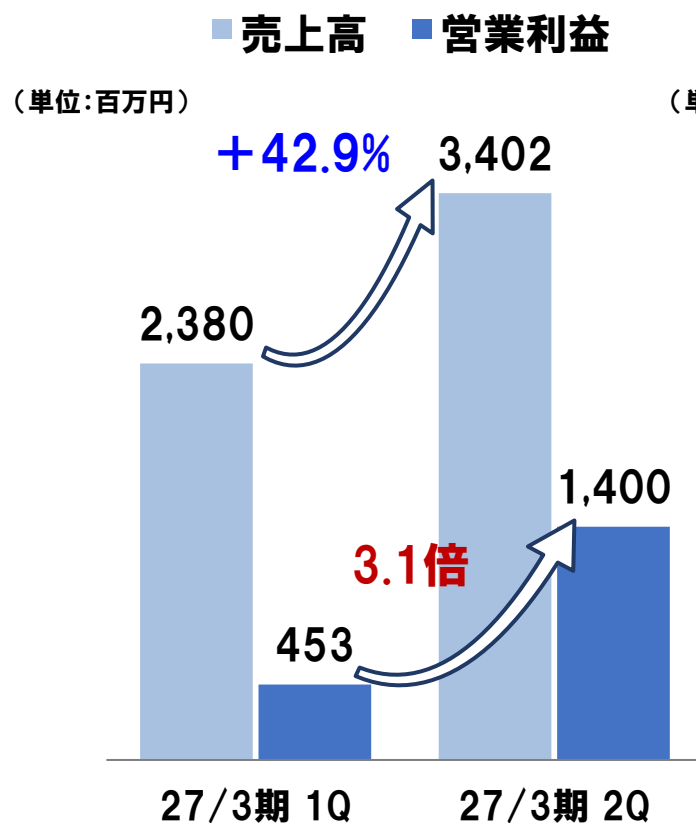


営業利益率 17.0% → 32.5%

※各社単体の管理会計ベース。SBI岡三の26/3期上期は連結前の単体決算(2025年4~9月)  
※SBIアセットは成功報酬を含む(27/3期上期 約9.2億円、26/3期上期 約2.5億円)

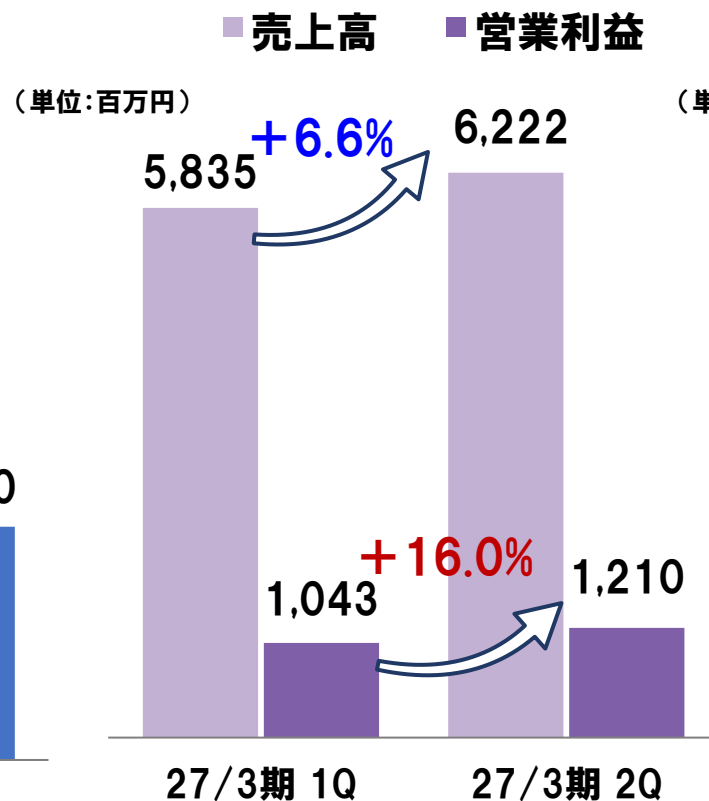
# 運用3社すべて前四半期比増益 — 成長の勢いが継続

## <SBIアセットマネジメント>



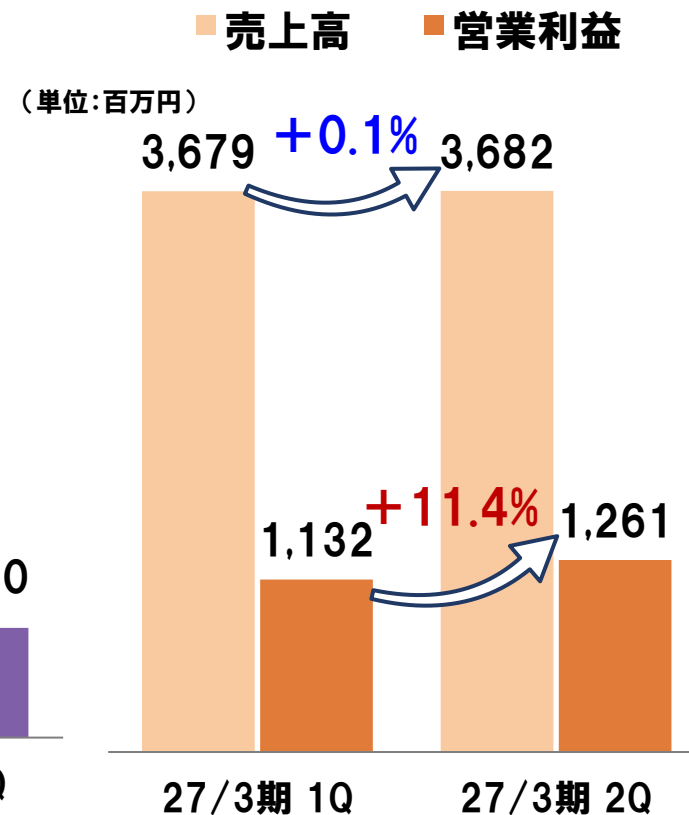
営業利益率 19.0% → 41.2%

## <SBI岡三アセットマネジメント>



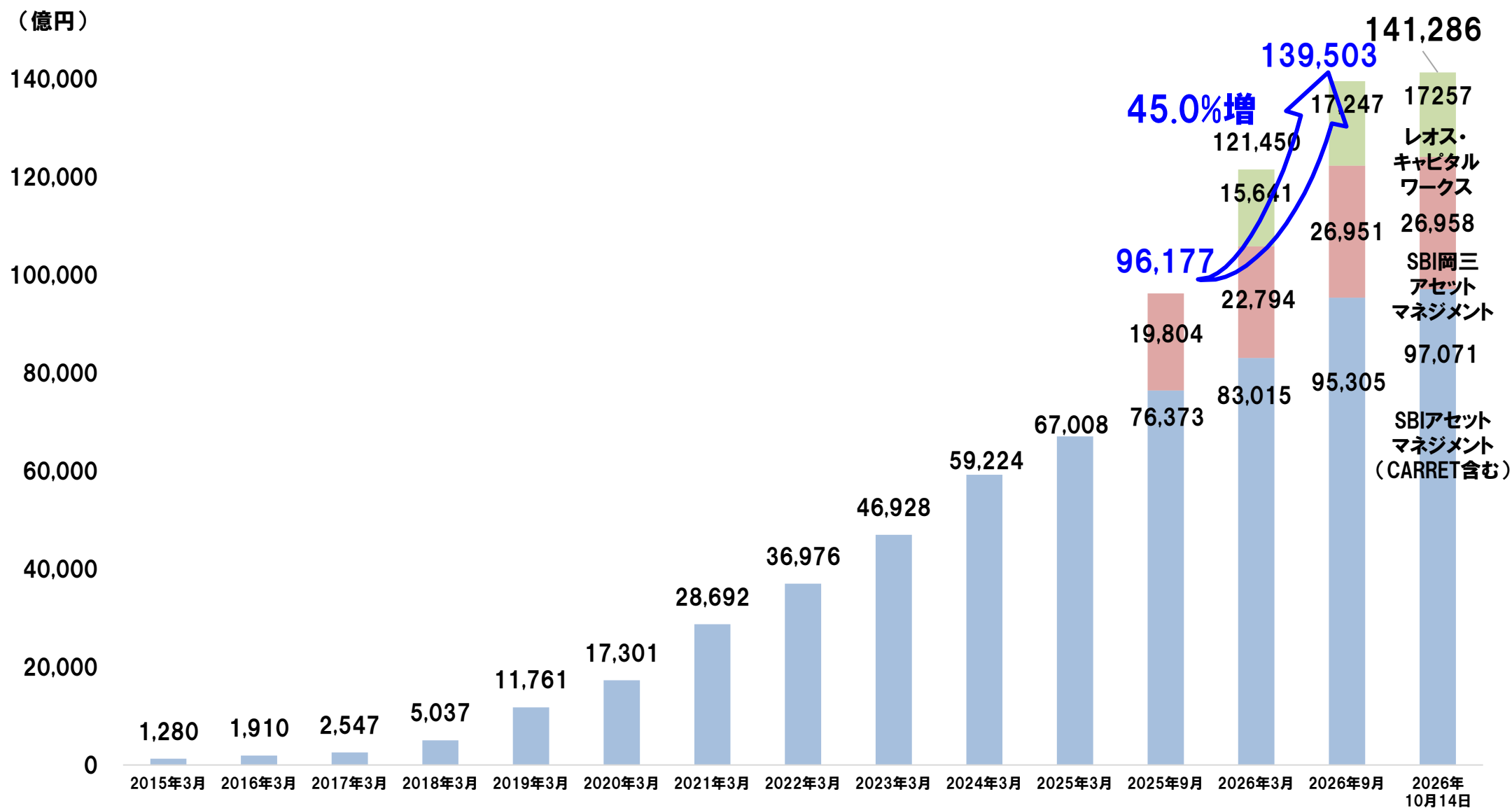
営業利益率 17.9% → 19.4%

## <レオス・キャピタルワークス>



営業利益率 30.8% → 34.2%

# 運用資産14兆円突破 ― 前年同期末比45%増



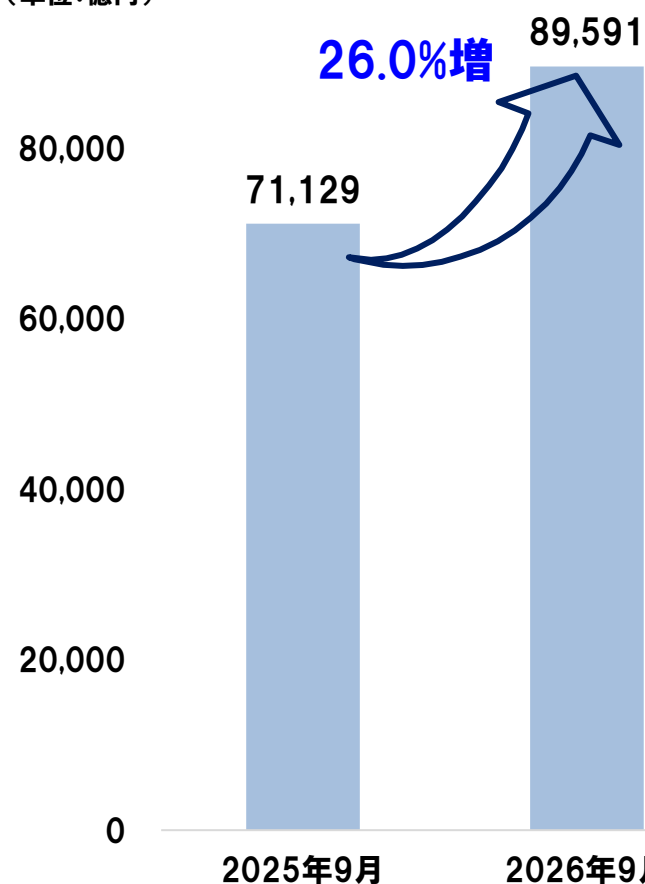
# 運用会社3社の運用資産残高はそろって2桁成長

## <SBIアセットマネジメント>

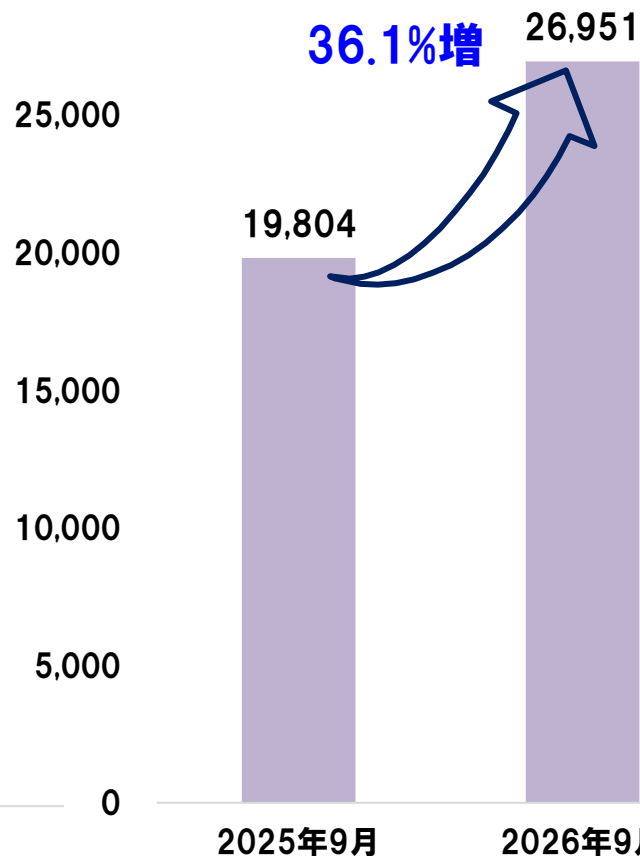
## <SBI岡三アセットマネジメント>

## <レオス・キャピタルワークス>

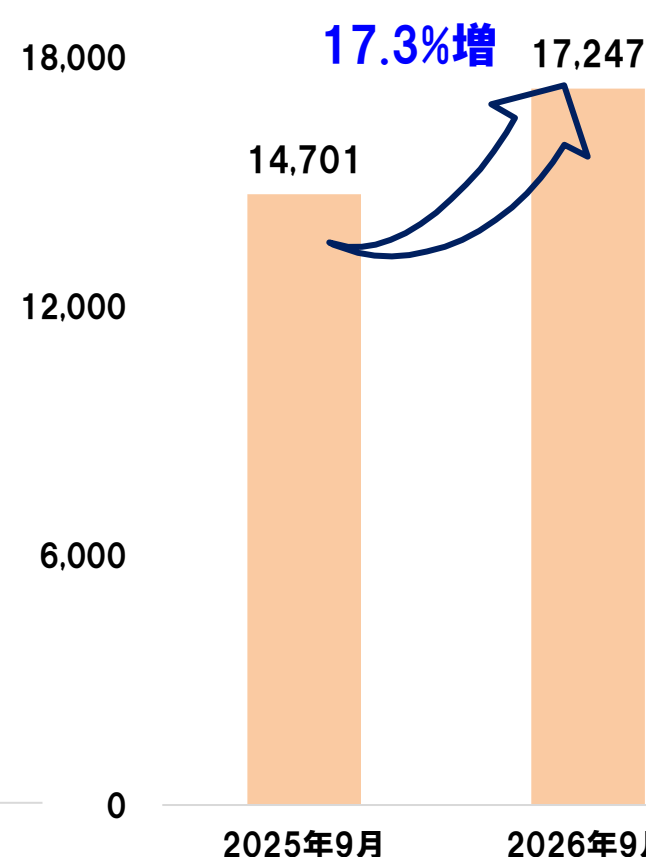
(単位:億円)



(単位:億円)



(単位:億円)



# 公募投信の資金純流入は69か月連続

相場の下落局面でも途切れず

(億円)

2,000

2021年1月～2026年9月、運用会社3社合算

1,500

1,000

500

0

21/1 21/7 22/1 22/7 23/1 23/7 24/1 24/7 25/1 25/7 26/1 26/7

出所: 資産運用業協会「運用会社別資産増減状況(公募)」各月分。資金純流入=設定額-解約額-償還額-収益分配額(当社の月次開示と同じ定義)。SBIアセットマネジメント・SBI岡三アセットマネジメント(旧 岡三アセットマネジメントを含む)・レオス・キャピタルワークスの3社を各月の名義で単純合算(連結範囲の変更は反映しない)。公社債投信(MRF等)を含み、私募投信・投資一任は含まない

# 国内運用会社ランキング9位 運用残高の拡大で存在感高まる

(単位:億円)

| 順位 | 運用会社                   | 運用資産残高  |
|----|------------------------|---------|
| 1  | 野村アセットマネジメント株式会社       | 899,277 |
| 2  | 三菱UFJアセットマネジメント株式会社    | 691,136 |
| 3  | 大和アセットマネジメント株式会社       | 471,055 |
| 4  | アモーヴァアセットマネジメント株式会社    | 417,932 |
| 5  | アセットマネジメントOne株式会社      | 248,662 |
| 6  | 三井住友DSアセットマネジメント株式会社   | 187,881 |
| 7  | 三井住友トラストアセットマネジメント株式会社 | 187,568 |
| 8  | ブラックロック・ジャパン株式会社       | 163,420 |
| 9  | SBIグローバルアセットマネジメント     | 129,294 |
| 10 | インベスコ・アセット・マネジメント株式会社  | 117,843 |
| 12 | SBIアセットマネジメント株式会社      | 89,128  |
| 24 | SBI岡三アセットマネジメント株式会社    | 25,057  |
| 30 | レオス・キャピタルワークス株式会社      | 15,109  |



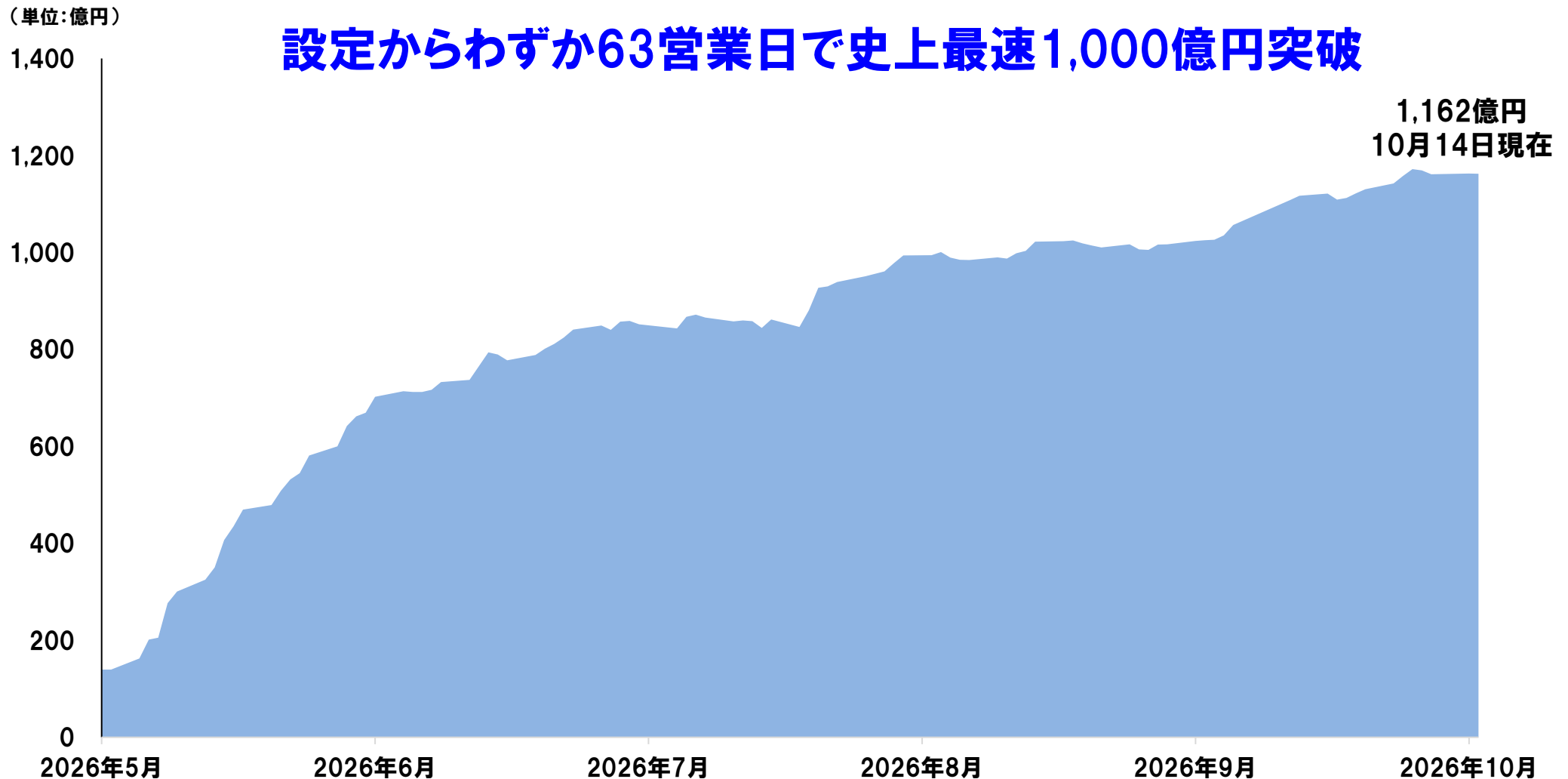
出所:資産運用業協会(運用会社別総合計純資産額)  
※公募及び私募投信の合計値、2026年9月末データ

<低コストファンドによる運用資産残高の拡大>

=ステート・ストリート提携ファンド第1弾=

# 『SBI NASDAQ100 インデックス・ファンド』

設定からわずか63営業日で史上最速1,000億円突破



＜低コストファンドによる運用資産残高の拡大＞

＝ステート・ストリート提携ファンド第2弾＝

# SBIアセット 2つのオールカントリー株式ファンド

世界の成長を、生まれたその日からすべての人へ

0～17歳：信託報酬**ゼロ**の「**ゼロカン**」

18歳～：信託報酬**最安**<sup>※</sup>の「**SBIオールカントリー**」

**SBI・ゼロ・オールカントリー・インデックス・ファンド**  
愛称：ゼロカン  
追加型投信／内外／株式／インデックス型

**0～17歳のためのNISA**

**SBI・オールカントリー・インデックス・ファンド**  
愛称：SBI オールカントリー  
追加型投信／内外／株式／インデックス型

**18歳からのNISA**

**0歳から一生涯の資産形成**

**ゼロカン**  
2026年12月お申込み開始  
(2027年1月買付開始)

2026年11月17日(火)  
設定・運用開始

**SBIオールカントリー**  
2026年10月19日(月)～  
当初募集開始

※同一指数に連動を目指すインデックスファンドとして(ウエルスアドバイザー株式会社の情報を基にSBIアセットマネジメント株式会社が判定)

## PART 2

**オルタナティブ・デジタルで残高の質を変える  
ー AI運用・プライベートエクイティ・暗号資産ETF・  
オンチェーン ー**



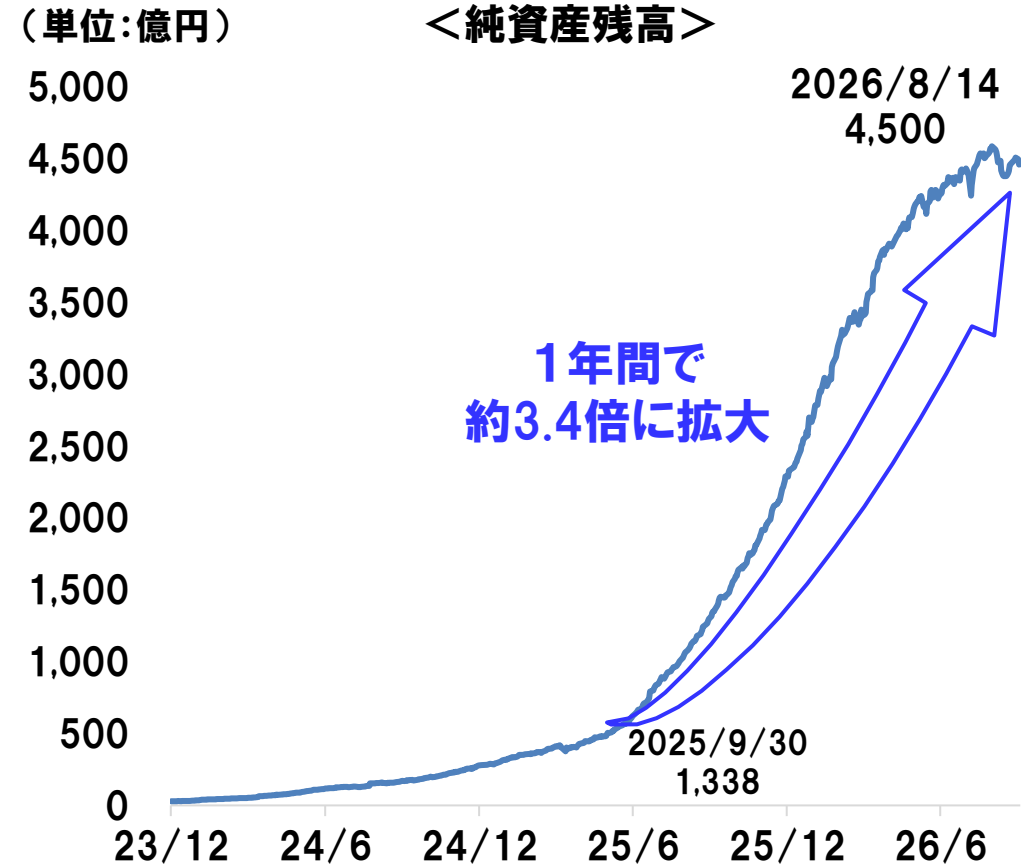
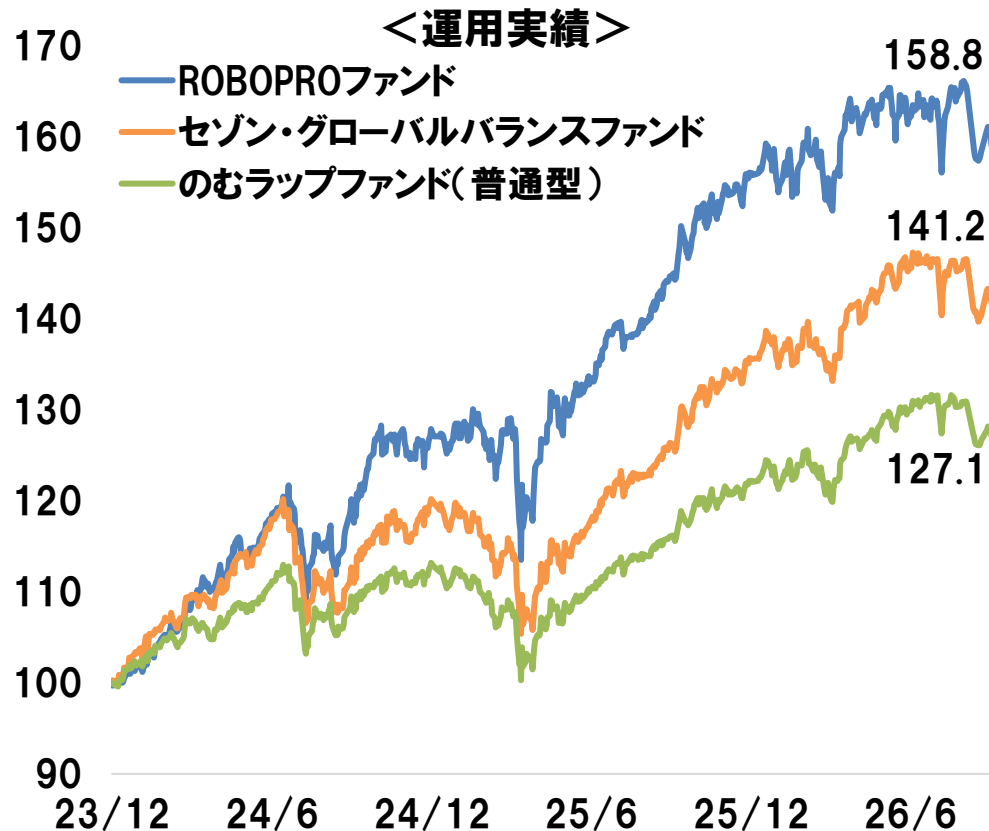
## <オルタナティブ戦略-AI>

# ROBOPRO、残高4,500億円突破 — 高付加価値運用が拡大

運用報酬率:0.40%

設定来のトータルリターンは約59%

純資産残高4,500億円を突破



※期間:2023年12月28日(当ファンド設定日)~2026年9月30日  
 ※2023年12月28日を100として指数化  
 ※設定来トータルリターン:分配金再投資基準価額ベース

※期間:2023年12月28日(当ファンド設定日)~2026年9月30日

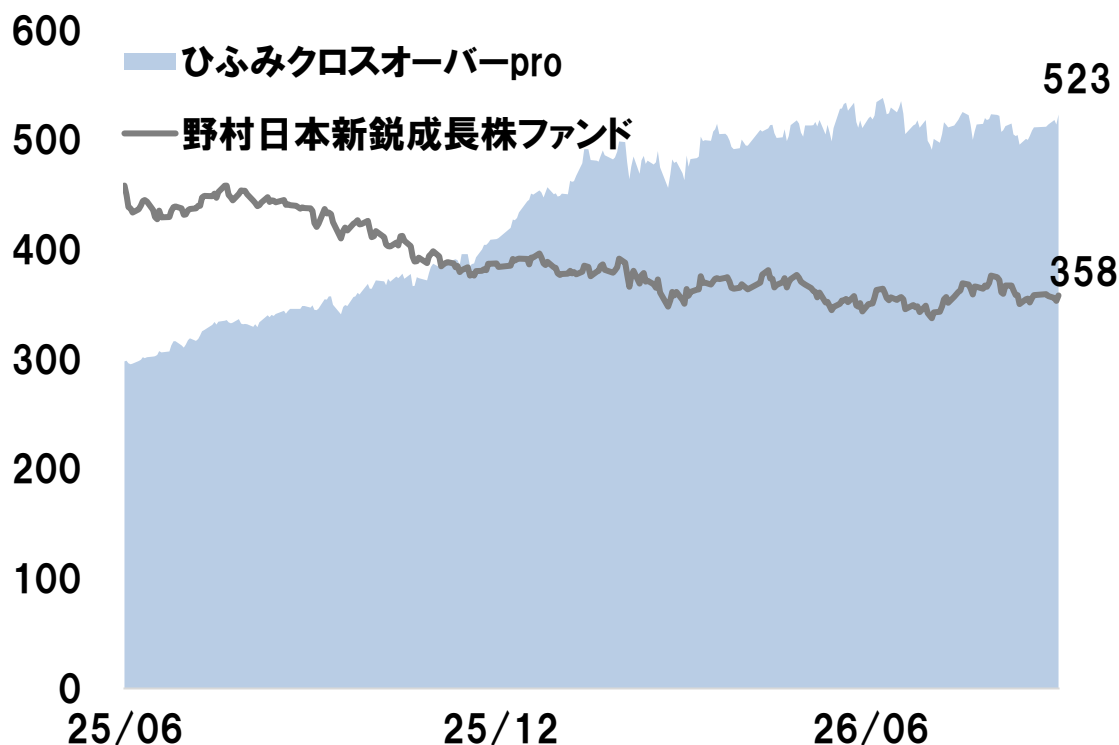
# ひふみクロスオーバーpro — 残高・運用実績ともに競合を上回る 未公開企業を組み入れた公募ファンドの先行者

運用報酬率:0.75%

## <運用残高>

期間:2025年6月末~2026年9月末

(億円)



## <運用パフォーマンス>

期間:2025年6月末~2026年9月末



# 暗号資産ETF・ファンドを2028年1月以降に設定へ

SBIとフランクリン・テンブルトンとのJVがETFとファンドを組成・運用へ

## <SBIグループの暗号資産ETF・ファンドのエコ・システム>

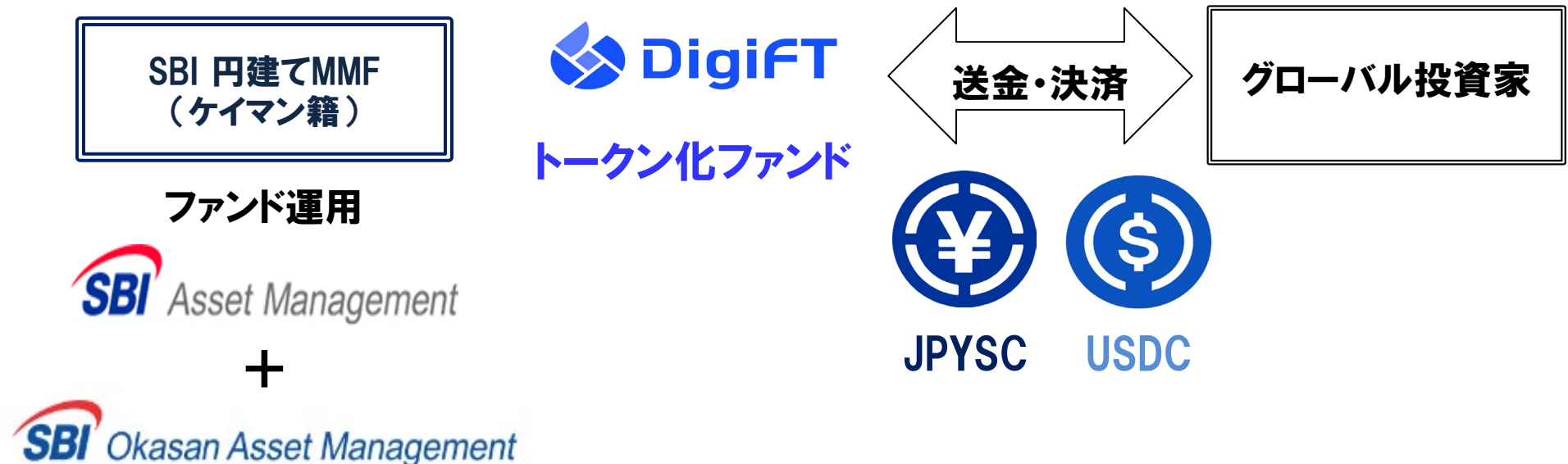


# オンチェーン資産運用を次の成長エンジンへ

第一弾は世界初、「日本高配当株ファンド」オンチェーン化：2026年7月

第二弾は、「円建てMMF」をオンチェーン化：2027年2月発行予定

24時間365日取引、即時決済・送金、ステーブルコイン（JPYSC）対応



## **PART 3**

**運用と保険を、一つの経営に  
ー 国内に類例のない上場グループへ ー**

# 運用と保険を、一つの経営に

## 統合の方法(吸収合併)



## 統合比率と対価

**SBIIG株式 1株 → SBIGAM株式 3.53株**  
対価はSBIGAM株式  
両社が独立の第三者算定機関を起用し、  
取締役会で決定

## 今後の進め方(関係当局の認可等を条件)

**2026年9月末** 基本合意を公表



**2027年1月末迄** 両社 臨時株主総会



**2027年4月** 統合の効力発生

# なぜ統合するのか — 1,132兆円の預貯金が動き出す

## 金利の復活で動き出す預貯金の受け皿に

家計金融資産 2,519兆円(2026年6月末、日本銀行「資金循環統計」速報)

|                    |                      |              |
|--------------------|----------------------|--------------|
| 現金・預金 1,132兆円(45%) | 保険・年金 586兆円<br>(23%) | 株式・投信等 679兆円 |
|--------------------|----------------------|--------------|



### ① 預貯金が動き出す

**1,132兆円**

金利の復活で、預貯金に滞留してきた家計資産が  
貯蓄性・年金の保険へ向かう



### ② 受け皿は保険負債

**586兆円**

保険負債は長期で解約されにくい恒久性の運用残高。  
運用会社の残高の質を一段引き上げる



### ③ 運用起点の保険商品

**国内に類例なし**

運用起点で保険商品进行設計する上場運用グループは日本にない。  
米国では大手運用会社が保険との一体化で残高と企業価値を伸ばした

# 証券・銀行の変革を、保険で再演する

| 論点  | 業界の現状                           | 統合グループの答え                                                            |
|-----|---------------------------------|----------------------------------------------------------------------|
| コスト | 対面・代理店中心の販売網。<br>人件費・手数料が保険料に転嫁 | ダイレクト販売を軸に、業界最低水準の保険料を年金・貯蓄性商品にも拡大。<br>運用収益と効率化益を保険料引下げの原資に          |
| 透明性 | 付加保険料等のコスト構造は原則非開示。比較できない       | 自社の付加保険料等のコスト構造を開示し、投信と同じ土俵で「何にいくら払うか」を示す。業界の透明性向上を先導                |
| 商品  | 売る側の論理で設計。運用と保険は別会社・別の意思決定      | 運用起点で設計。投信で代替できない機能(保障・相続・終身年金化)にしか保険料を取らない。AIで査定・保全・事務を再構築しコストを抜本転換 |



**「顧客中心主義の徹底」**

**低コスト・開示・運用起点を自ら実践し、契約者本位の競争環境の整備に貢献する**

# 統合で何が変わるか ― 事業の絵姿

## 統合前

## 統合後

### 商品

運用と保険が別会社・別々の意思決定  
「運用に強い保険商品」を  
決められる主体が不在



運用起点で保険商品を設計  
変額の特別勘定も、貯蓄性の予定利率も、  
運用の組成力を直接反映

### チャンネル

直販・一部代理店販売



SBIグループのシナジーの徹底追求・  
地域金融機関とのネットワークで  
全国のお客様へ

### 経営基盤

システム・AI投資が二重、保険単体では  
投資回収が困難



AI・システムを共通基盤化し、コスト構造を  
抜本転換(完全AIドリブン化)

# 貯蓄・年金性保険 ― 年16兆円のフローの3%を取りにいく

## 市場(2024年度)

年間フロー  
約16兆円  
一時払の個人保険11.3兆円＋  
個人年金4.6兆円

個人年金 保有契約高  
104兆円  
金利の復活で預貯金から動き出す

変額保険・変額年金 保有  
64兆円  
運用力が商品力に直結するフィー型市場

## 目標

|            | 2030年度 | 2035年度 |
|------------|--------|--------|
| 新契約(年間)    | 0.5兆円  | 1.0兆円  |
| 年間フローのシェア  | 約3%    | 約6%    |
| 保有残高       | 2兆円    | 5兆円    |
| うち変額(特別勘定) | 1.2兆円  | 3兆円    |
| うち定額(一般勘定) | 0.8兆円  | 2兆円    |

2兆円はAUM50兆円の4% ― だが解約されにくく、報酬率は平均を上回る

# AIで運用と保険のコスト構造を変える ― 5年で対象コスト半減

| 対象コスト(26/3期) |       | 1年後   | 3年後    | 5年後    |
|--------------|-------|-------|--------|--------|
| 運用3社         | 115億円 | ▲1割   | ▲3割    | 半減     |
| 保険           | 330億円 | ▲1割   | ▲3割    | 半減     |
| 合計 削減額       | 445億円 | ▲45億円 | ▲135億円 | ▲220億円 |

運用約360人・保険約1,030人の単体では、共通AI基盤への投資は回収できない。  
資産側と負債側を同じ基盤で再設計して初めて、投資の分母ができる

削減益は、保険料・信託報酬の引下げと利益へ

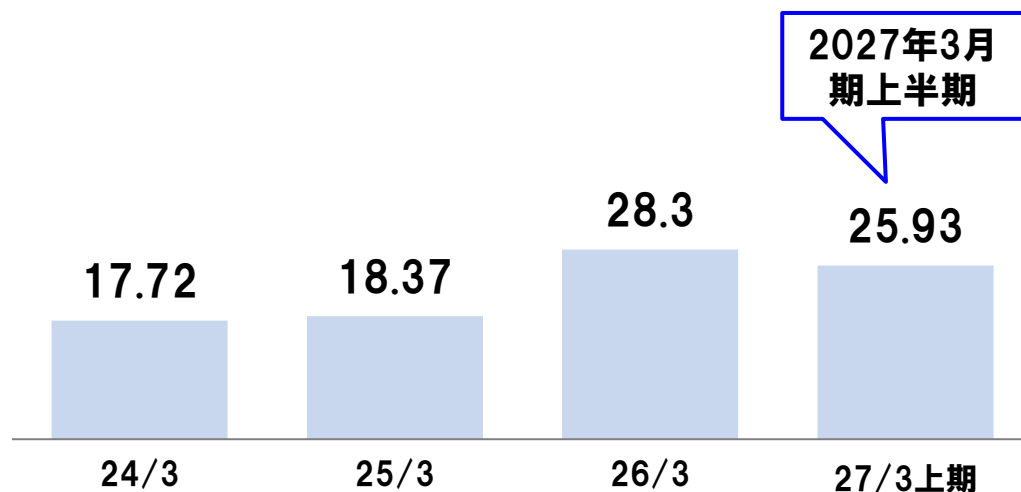
対象コスト:運用3社=売上原価+販管費-販売会社への代行手数料、保険=SBIIGの事業費(上期実績×2)。事業費率=事業費÷経常収益。人員は26/3期有報の連結従業員数。  
削減額は試算であり業績予想ではない

27

# 統合でEPSの傾きを変える ― 3つのエンジン

SBIGAM単体で上期EPSは25.9円で前期通期の9割超、  
SBIIGとの合併によりEPSの傾きを変える

## <SBIGAMの1株当たり利益(EPS)の推移・円>



### ① AX ― コスト構造の抜本転換

AI・システムを両社の共通基盤に。効率化益が利益率とEPSに直結

### ② 変額・貯蓄性の残高フィー

保険料が運用残高として積み上がり、残高フィーが複利で効く

### ③ 一般勘定の運用一元化

保険資産の運用受託が加わり、フィー収益が拡大

# 2030ビジョン(統合版)ー 収益力と還元力を数倍規模に

|         | 26/3期 実績<br>(GAM単体) | 2030ビジョン<br>(1Q時点) | 2030ビジョン<br>(統合後)※            |
|---------|---------------------|--------------------|-------------------------------|
| 運用残高    | 14兆円(26/6末)         | 50兆円               | 資産運用業 50兆円<br>保険の保有残高 2兆円強    |
| 運用報酬率   | 0.23%               | 約0.30%             | 約0.30%                        |
| 売上高     | 279億円               | 1,500億円            | 約3,600億円<br>(運用1,500+保険2,100) |
| 税引き前利益率 | 18.5%               | 25%                | 約20%<br>(運用25%・保険 経常利益率15%)   |
| 税引前利益   | 55.4億円              | 350億円~375億円        | 630億円~650億円                   |
| EPS     | 28.3円               | 130~150円           | 160円~170円                     |

※ 2030年度・日本基準・試算であり  
業績予想ではない

## 何を指すのか ー 日本にまだない「運用×保険」の上場運用グループ

- ① 恒久性AUMの取り込みで運用会社の残高の質を一段引き上げる
- ② 運用起点の保険・運用商品を証券・銀行・地域金融機関の全国ネットワークへ
- ③ グループ初の完全AIドリブン金融会社としてコスト構造を抜本転換

## **PART 4**

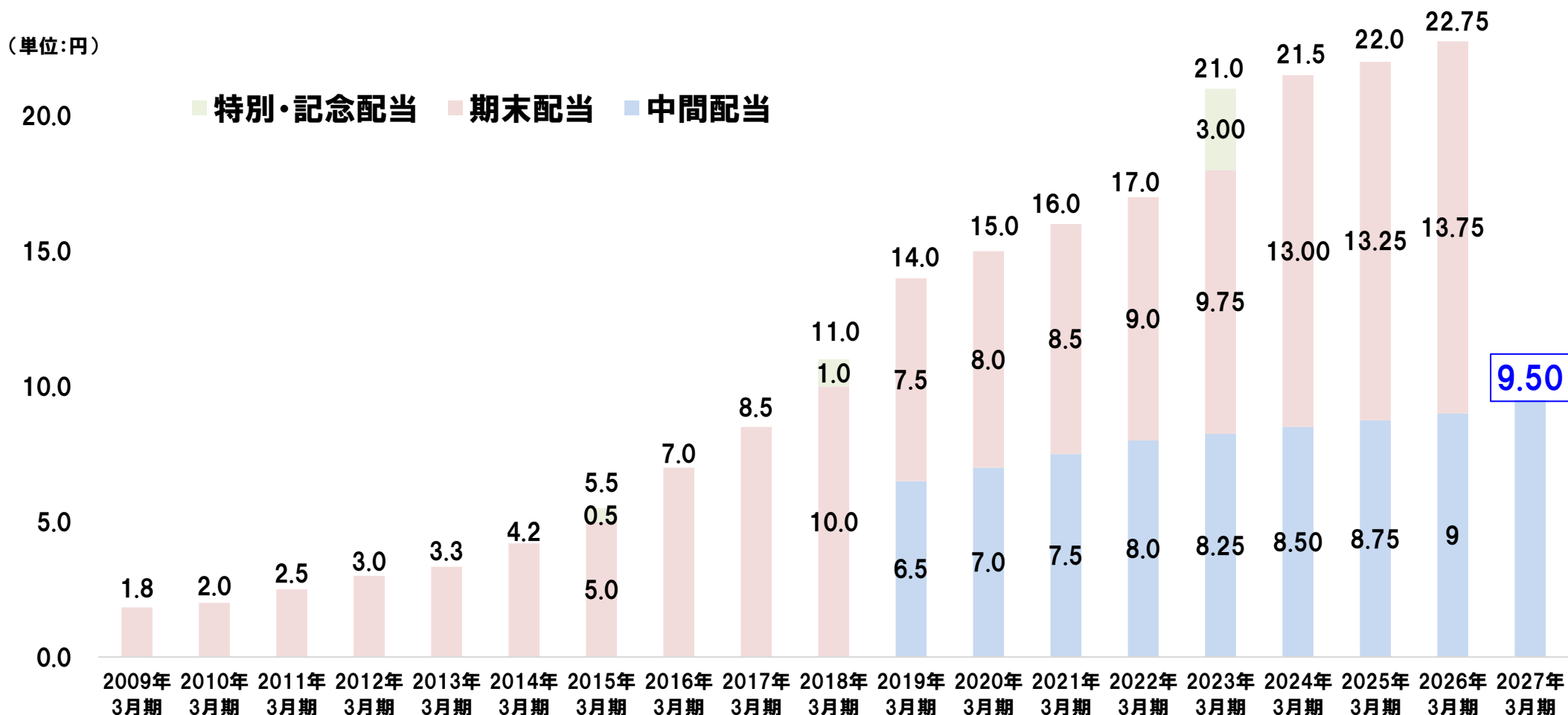
### **8期連続の中間増配**

**－ 還元姿勢は統合後も不変 －**

# 中間配当は9円50銭へ増配 ― 8期連続の中間増配

前期中間配当 (9円00銭) から50銭の増配

期末配当は2026年3月期まで17期連続増配、18期連続増配の継続を基本方針



※ 2015年3月期の記念配当は、上場15周年記念配当

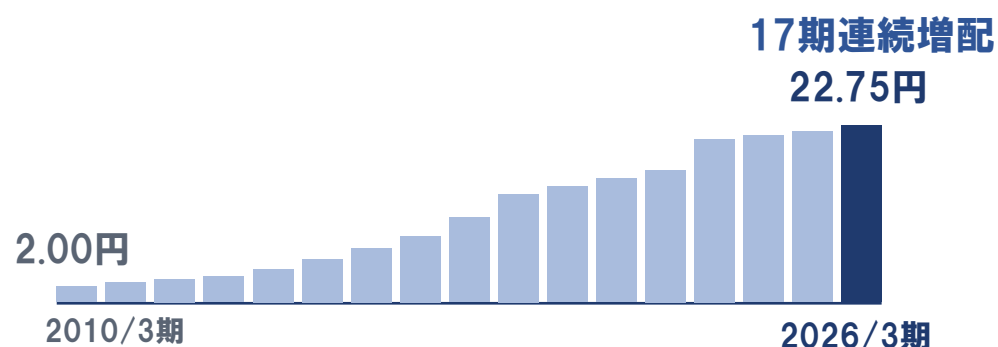
※ 2018年3月期の記念配当は、設立20周年記念配当

※ 2023年3月期の特別・記念配当は、ブランド売却による特別利益計上と設立25周年による記念配当

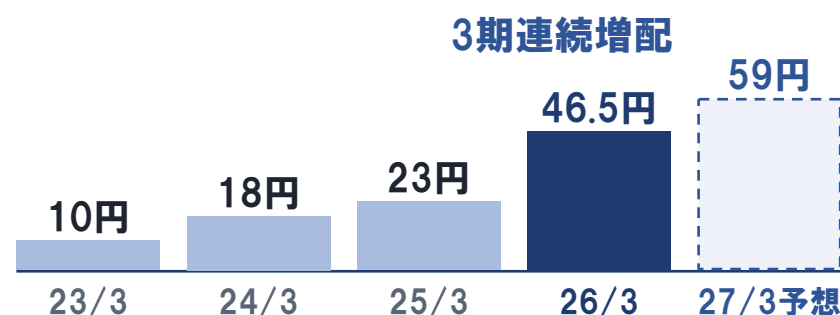
# 両社の還元を統合後に引き継ぐ ― 連続増配・XRP優待

## 統合後の配当方針・株主優待は、決まり次第開示する

SBIGAM(4765)の配当推移



SBIIG(7326)の配当推移



## 株主優待の比較(XRP・相当額)

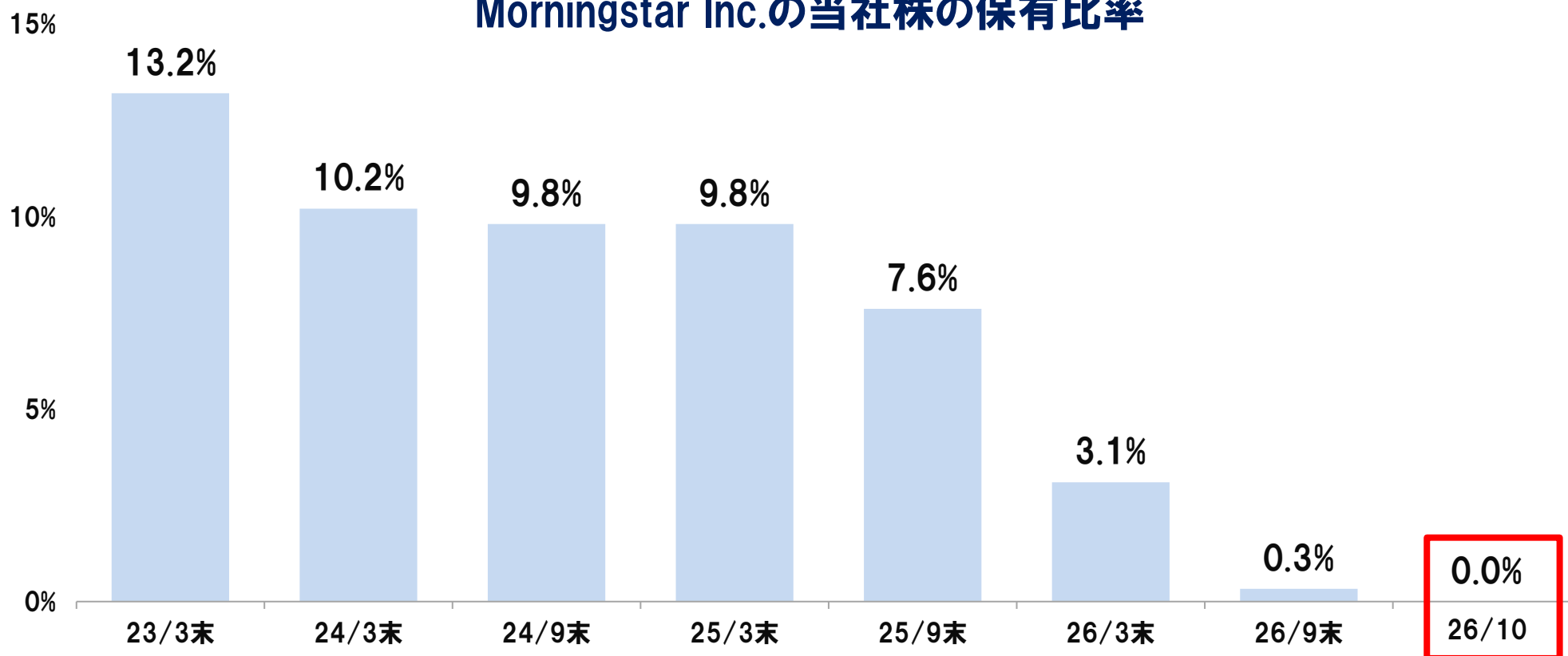
|               | SBIGAM(4765)                      | SBIインシュアランス(7326) |
|---------------|-----------------------------------|-------------------|
| 100株以上～500株未満 | 2,500円相当                          | 2,500円相当          |
| 500株以上        | 10,000円相当                         | 10,000円相当         |
| 500株以上・長期保有   | 12,000円相当(1年以上)                   | 12,000円相当(2年以上)   |
| その他           | ひふみクロスオーバーpro<br>2,500円相当(500株以上) | —                 |

# Morningstar Inc.の売却完了 需給の重しが解消、浮動株が拡大

2023年3月末以降、段階的に売却が進められてきた同社保有株式は、  
2026年10月に全株式の売却が完了

Morningstar Inc.は、SBIグループ初のJVパートナーであり、当社の成長を支えてきた重要な存在。  
「投資家主権の確立」という共通理念のもと、資本関係解消後も良好な事業関係を維持・発展していく。

Morningstar Inc.の当社株の保有比率



# 情報開示の拡充 ― 運用残高を毎月開示

四半期から月次へ。進捗は毎月の数字で確認いただく

|            | これまで              | これから                                                  |
|------------|-------------------|-------------------------------------------------------|
| 各社の運用残高の開示 | 四半期               | <b>対応済み</b><br>月次(2026年7月末残高分より実施中。<br>毎月5営業日以内に開示)   |
| 株主との対話     | 株主総会<br>(経営近況報告会) | 株主とファンド受益者向けの<br>SBIGAMオーナーズミーティング開催<br>2027年2月(開催予定) |
| 情報発信       | 和文中心              | <b>順次対応</b><br>英文開示・海外IRを拡充                           |

# オーナーズミーティング ― 2027年2月6日開催

株主の皆さまと、事業の展望と各運用会社の運用状況を直接対話する場

## SBIGAM オーナーズミーティング

2027

2.6

土曜日 午後

JPタワー ホール & カンファレンス  
東京駅 丸の内南口 徒歩1分  
(KITTE 4・5階)

### 会場

JPタワー ホール & カンファレンス(丸の内・KITTE 4・5階)

### 参加形式

会場参加とオンライン視聴のハイブリッド

### 対象

2026年9月末時点の株主の皆さま

### ご案内

12月初旬にご案内状を発送予定

### プログラム

事業の現状と今後の展望に加えて、グループ運用会社各社の取り組みや運用状況についてもご紹介。  
加えて、株主の皆さまとの質疑応答も行います。